

<W杯> イタリア、PK制し PDF转换可能丢失图片或格式，
建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/462/2021_2022__EF_BC_9CW_E6_9D_AF_E6_B1_BA_c105_462112.htm サッカのワールドカップ（W杯）ドイツ大会は第25日の9日午後8（日本10日午前3）、ベルリンでのイタリア - フランスが行われ、イタリアが1 - 1のまま迎えたPKを5 - 3で制し、24年ぶり4回目のを果たした。壁の守をるチーム同士のは、予想に反して序からいた。フランスは、マルダがペナルティエリアで突破をったところをファルで止められ、PKを得。これをジダンが意表を突くチップキックでめ、前半7分に先制点をとった。イタリアは同19分、ピル口の右CKからマテラッツィが高い打点のヘディングシュートをめ、すぐさま同点に。同30分ぎにも、ピル口の右CKから今度はトニがで合わせたが、これはバをたたいた。フランスは後半、アンリが引なへの突破で好を作れば、ジダンも巧みなボールいでまわりの攻参加を促し、立ち上がりのをに展.攻守の要であるビエラが後半11分に交代したものの、以降も合の主を握った。きのいとッティらを交代させたイタリアは同32分、ゴール正面でFKを得てようやく好をつかんだが、ピル口の放ったシュートはゴール左へわずかに外れた。延も流れはフランス。延前半9分、リベリが中央突破からゴール右にどいシュートを放つと、同13分、サニョルのクロスから走りんだジダンがフリの状でヘディングシュート。しかし、イタリアGKブフォンが的的な反でこれをしのいだ。そして延後半5分、フランスに予期せぬ事がれる。り合い後

にマテラッツィと言い合いになったジダンが突きをし、レッドカードで退分に。流れを失ったまま迎えたPKで、後攻のフランスは2人目のトレゼゲが失。4人目まで成功していたイタリアは、5人目のグロツソもにめ、24年ぶりにW杯を制した。 小編集略注:PK「ピケせん」サッカーで、切れで同点の、チーム各五人の手によるペナルティキックでをめる方法。ペナルティキック。互罰点球決勝。CK（サッカー）攻がコナエリア内から行うプレスキック。角球。FK（free kick）任意球 GK（goal keeper）守門員レッドカード（red card）紅牌ジダン（Zidane）齐达内 100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com